賀茂社記録

九十一

832
97
305

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

賀茂神社考

832
97
305

加百六九

91

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

往古ヨリ賀茂ノ御社ニシテ毎歳十箇度御神樂（ウタヒ）之節奏勤シテ音樂ノ奏奉ル殊ニ笙家ニ御宸翰ノ傳ヘテ其頭ノ司ル然ルニ當宮ノ神名未タ詳ニカ知サルノ又其ノ本意ノ失スルニ似タリ故ニ累年其説ノ受ントセドモ社司深ノ秘シテ是ノ示ス或時社司ノ云ク當皇ノ神名秘スルニ非ス實ハ當所ニ傳ヘ記ノ物不備メ已レ等カ先祖ノ書傳ノ是トシテ其他ノ知ラス故ニ人ニ傳フル所ニ不決因茲神號及ヒ社ノ由來ノ問ノ人有ドモ或ハ深秘ト稱シテ其説ノ不語一年當所名所旧跡ノ物語ノ集ムルノ次テ舟差ト云ヘル所ノ教テ久方ノ天ノ磐舟ニギ寄シト云ヘル歌ノ吟スル比ニ本ヅキ或亦葵祭ノ儀式ナ

大正7.2 購求

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

トヲ考ヘ推テ一篇ヲナシ自賀茂神社考ト名付テ家蔵ニ
納ム最モ是ヲ信用スベキト云フニ非ス後人可否ヲ正セルニ
助ニ是備フノミナリ

安倍季尚編輯

賀茂神社考

社号之説

賀茂皇太神宮
別雷皇太神宮
或人ノ云ク別雷ト称スハ非ナリ別土山ニ鎮座ノ故別ト称セシ

祭始年記

賀茂祭禮ノ始ハ人皇三十代欽明天皇即位二十八年ニ五穀能成
ノ爲四月中酉ヲ以テ被祭ルヨリ其始メナリ蔡祭リノ起リ
即是ナリ元禄ヨリ凡ソ一千百八十年社稷ノ神ト称スルモ故ナリ
社ハ土地ノ称ニ當ナリ稷ハ五穀ノ長

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

造營ノ年記

賀茂御社修造ノ始ハ四十代　天武天皇ノ御宇白鳳元年
ナリ元禄ヨリ凡ノ一千五十年ハカリニ當レリ

御鎮座土地之名

當宮御鎮座之霊地ヲ亀ノ岡ト云フナリ此故ニヤ後之御山ヲ
亀山ト号スナリ俊成卿歌ニ
五社百
松ノ木千年ノ鶴ノ夜半ノ声亀ノ深山ニサゾ聞ユラン

當宮方角附鳥居

聞説ノ當宮ト伊勢トハ互ニ御社向ヒ給フナリ故ニ當社ハ辰巳
向ヒ伊勢ハ戌亥ノ方向給フトゾ亦當社ノ二鳥居ハ未申ノ
方ヘ向ノ是ハ賀茂明神此霊地御鎮座ノ時當テ地主ノ
神此去テ松尾ヘ影向シ給フナリ此由來ニ依テ松尾ノ方ヘ
向フトソ（一鳥居ハ正南面ナリ）或人ノ云リ此由緒ニヤ松尾ノ歌ニ蔡ヲ讀ル
歌アリトゾ亦今宮ニ蔡ヲ讀ハ當宮齋院ノ野々宮ノ旧跡ナル
故ナリ

伊勢賀茂神徳均ノ説（ヒトシキ）

神代ノ巻ニ瓊瓊杵ノ御代ニ僅（ワヅカ）ニ見ヘタリ然ルニ彼巻ノ畢竟
ハ伊勢賀茂両宮ノ神徳ヲ述ルト云傳ヘタリ蓋シ其實ヲ
知人稀ナリ其説本宮ノ下ニ畧ヲ記

齋院之事

齋宮ノ立セ給フハ伊勢ト當社ノ兩宮ナリ蓋シ伊勢ハ人皇十一代
垂仁天皇第二皇子倭姫命是其ノ始メナリ而後八十四代
深草天皇以後旧記不見（深草仁明ノ）賀茂齋院ハ五十二代
嵯峨天皇ノ皇女有智子内親王是其ノ始メナリ而メ後
八十三代土御門院ノ以後旧記不見ヲ以宮居ノ旧跡ハ
二ノ鳥居一町バカリ西森中ニアリ

賀茂社圖 此外ニ大田大宮ノ社アリ

本宮參所神瓊瓊杵尊
御父忍穗耳尊 此神ハ天照大神ノ御子ナリ

御母ハ栲幡千千姫命 此神ハ高皇産靈尊ノ女ナリ
御妃ハ木花開耶姫命 此神ハ大山祇ノ女ナリ
神代卷曰皇孫已生號天津彦彦火瓊瓊杵尊時
有奏曰欲以此皇孫代降故天照太神及賜天津彦彦
瓊瓊杵尊八坂瓊曲玉及ハ恐鏡草薙劔三種宝物
又以中臣上祖天兒屋命忌部上祖太玉命猿女上祖天
鈿女命鏡作上祖石凝姥命玉作上祖玉屋命凡五部
神使配侍焉ニ〳〵
三種神寶ト八尺玉鏡劍ノ三ナリ蓋シ璽ハ仁鏡ハ
智劍ハ勇ナリ天照太神國土ノ照シ万物ニ至ル

一ニテ恵ミヲ守護シ給フ御心ニ准ヘテ三器トスルナリ
瓊々杵尊ハ天照大神ノ御心ニ均キナリ因茲
神名ニ三種神器ヲ備ヘテ天津彦々火瓊々杵尊
ト称シテ国土ヲ譲リ三種ノ神器ヲアメノ給ヘリ
此ヲ以テ知ベシ伊勢賀茂両宮ノ神徳均キナリ
神名ノ説天津彦々トハ天孫ノ儀ナリ火ノ字ノ
心也智ハ明ヲカナルノ儀也是即チ鏡也瓊々
玉ナリ是即チ剣也勇也是即チ剣ノ
答蒙曰豊葦千原ト定記曰右ニ八十萬乃神達チ天高市
仁集給比神祇仁議給天可遣神於尋出之奉利此国

陪鹿嶋仁座ス武雷神香取仁座ス齋主神崇下之千早振
悪神於悉皆伏世順陪奉天遂報申ス此後建角見命国々
於見巡之御座順於是天鈿女命国々於見巡之御座
順於是天鈿女命一般石樟船ヲ槽奉利尊於神代乃浪静
奈留磯求天送利御座仍天天ノ神ヲ刑賜之神宝ヲ此国乃
固ト成世玉波乎山天北山乃麓仁應化之百王於守利玉布経津主
武雷神毛此所仁墜跡之玉陪利ラハ
私ニ曰當所ニ御生所ト云フアリ其辺ノ神代ノ浦ト云
傳ヘタリ風雅集ニ賀茂遠久
久方ノ天ノ盤石舟漕寄シ神代ノ浦ヤ今ノ御生野

ト讀ル歌アリ此和哥ハト定記ノ心ヲ讀ルニヤ此御生所ハ
當宮ノ御旅所ト云習シタル其神祭ノ体ハ天孫降
臨ノ体ヲ摸スト見ヘタリ山陵ノ事神代卷曰瓊瓊杵
尊崩因葬筑紫日向可愛之山陵ニ
世ニ傳ノ賀茂明神神詠ト称スル哥アリ
千早振別土山ニ宮居シ天降坐シ神代ヨリ先
此神詠未タ不曉故ニ暫ク筆記ス

權殿　此社ハ本宮ノ別宮ナリ
私云リ此權殿ハ人皇五十九代宇多天皇御願ニ依テ寛平
九年ニ營ミ十一月第二酉日始祭給フナリ北祭或臨時ト
号スナリ本宮御造營ノ時ハ先此ノ權ヲ營ミテ正殿ヨリ
神ヲ遷奉而後正殿ノ營ミテ權殿ヨリ遷奉ルナリ

若宮社祭所神神武天皇　社号未聞タ、若宮殿ト称スル也
御父ハ莒肖不合尊
御母ハ玉依姫　海童ノ小女ナリ
御妃吾平津姫
山陵ハ日向国畝傍山ニ葬奉壽一百二十七

楯尾社祭所神天照太神
土師社祭所神豊受太神　国常立尊ナリ
棚尾社祭所神二詫アリ

一説　稲魂命　二神ノ御子ナリ

一説　木花開耶姫　此神ハ當社ノ御妃ナリ

私ニ云ノ農夫或ハ戸戻公ナトハ此小社ヲ祭者ノ神ト云習ハシテ本宮ヘ參詣ノ時ハ先此小社ヲ拜スル此社ヲ不拜本宮ヲ拜スルモ又非礼ノ儀也ト云習シタリ扨口無ニシテ非ス是ヲ按スルニ降臨ノ時始テ此ニ宮地ヲ設ケタル其旧地ナルベシ然レハ社參之輩ヲ先拜スル又其一理アリ余旧地ト云説ハ參參ノ下ヲ見テ曉スヘシ

新宮社參所神　罔象女（ミツハノメ）　此神ハ貴布祢ノ神ニシテ水門ノ神也亦名速秋津日命トモ号伊弉册ノ御子也又世ニ奥院ト号スハ素盞嗚尊也

或時余或社司ニ問新宮ト本船ハ同神也然ルニ貴布祢ヘ日參ハ何ヤ社司云ノ應永ノ比貴布祢ノ里人ト不知ノ（和允啓云）又アリ日參ナリ難シ此ノ時奎箱ヲ盗取テ今ノ新宮ヲ營ニ納奉ナリ其後和睦ノ以後本地ヘ遷幸ナシ奉ル也既ニ一度參シル地ナルニ依テ即千崇奉云ク

掛帖ニ（錄ス云）新宮之儀應永ヨリ三百五十年バカリ以前ニ有之比説誤タル事可知

山尾社參所神大山祇神　軻遇突智ノ御子也伊弉册ノ御孫也

藤尾社參所神住居　底筒中筒男表筒男ナリ

川尾社參所神迦具突智（カグツチ）　伊弉册御子ニ

竹岡社參所神二説

一説一言主ノ神

一説　夏代主神　此神ハ大己貴ノ御子也地主ノ神ナリ日本二神ヨリ素盞嗚受テ御子大己貴譲然ナリ

右斤岡ノ神ハ地主ノ神也毎神供ノ時先本社ヘ神供ヲ献シ次ニ斤岡及ヒ摂社ヘ備ノ也蓋シ斤岡ヘ神供不備以前ハ本社ノ祝詞ナシ此社ヘ神供ヲ備ヘ祝詞ノ後ニ本社ノ祝詞ヲ神供ノ徴スナリ此斤岡ハ土地ノ名也俊成卿ノ哥ニ

五社百　白妙ノ手向ノ木綿三ツカフ哉斤岡山ノ雪ノ村消

諏訪社祭所神　建南方命　此神ハ大己貴ノ御子ナリ

岩本社祭所神　在原業平

橋本社祭所神　藤原實方

啓蒙曰神祇拾遺曰岩本橋本者住吉和歌之両神也業平實方常拝件二社祈和歌之秀矣遂家風成擧溢海内之故世人称為両神化現云ニ

住吉祭所神前記ス

和歌浦祭所神　衣通姫　神号玉津嶋明神此神ハ人皇二十代允恭天皇ノ后也忍坂大中姫ノ妹ニ

徒然ノ中ニ吉水和尚ノ哥アリ亦名月ヲメテ花ヲ詠シ右ヘノ山ノ慈鎮岩木ノ社トナシ

澤田社祭所神二説　艶キノ人ハ此ニ在原ト読ハ

一説太王命

一説武甕槌神
亦當社ノ水書ノ社ト号ス説アリ是ハ社前ノ小流ニ
向ニ樹木ノ枝等ヲ以テ流木ニ心願ヲ書ク事
アリ此由緒ニ依テ謂ヘ

楢社祭所神二説
一説兒屋命 此説ニ随ノ時ハ楢ヲ奈良作ル
一説注津主神 磐筒女神ノ御子ナリ

梶田社祭所神瀬織津比咩
比社農夫最一拝礼ス其故アルニヤ

幸社祭所神猿田彦命
聞ク説ノ猿田彦ノ神ハ衆ノ善悪ノ気ニ乗テ形ヲ
現ス故ニ其名多シ猿田彦幸神 正化神宇賀神道
祖神岐神白鬚奥玉神早尾源大夫福徳神百
大夫舩玉前玉已上一神ノ名ナリ

大田社祭所神二説
一説猿田彦啓蒙曰大田社非猿田彦之裔云ヘ
一説天鈿女命 高皇産霊尊ノ御子ニ
當社未申ノ傍ラニ井水アリ乳見擇食ス兒乳房
放テ悩ム時此井水ヲ呑セ或ハ浴シテ其難ヲ免ル
ナリ如此ノ神妙ヲ以テ考レハ鈿女命ナルヘシ

神代巻曰已而且降之間先驅者還曰有一神居天八
達之衢其鼻長七咫背長七尺餘當言七尋昌尻
明耀眼如八咫鏡照之八十萬神皆不得相問勅
一天鈿女曰汝最目勝於人者宜往問之天鈿女乃露
其胸乳抑裳帶於臍下而笑噱向立曰時衢神
問曰天鈿女汝為之何故耶對曰天照太神之子所幸
道路有如此居之者誰也敢問之衢神對曰聞天照
太神之子今當降行故奉迎相待吾名是猿田
彦大神時天鈿女復問曰汝將先我行乎將抑我
先汝行乎對曰吾先啓行天鈿女復問曰汝何處到

耶皇孫何処到耶對曰天神之子則當到筑紫日向干穗
〻觸之峯吾則應到伊勢之狹長田五十鈴川上云〻

大田摸社
百大夫鳥居之西傍ニ在小社ナリ
鎮守 百大夫ノ次ニ在ル小社ナリ
白髭 鳥居ノ南ノ傍ニ在ス
福德社 鳥居ノ外ノ路辺ノ小社ナリ
右四社ハ皆猿田彦命ナリ 幸神ノ下詳カ也
大宮社 祭所神大己貴命 素戔嗚ノ御子也
一説社号氏神ト称スル是ハ国土地主之神名故當所氏人ノ

祖神ニ非サル也 社司ノ遠祖ニ不決ニ
世ニ京洛大宮通ニ當ル故ニ大宮殿ト号ストイヘトモ是ハ非也
日吉大宮殿ト同神ナルカ故ナリ

癸叓四月朔日ニ當リ但シ申酉ト讀ル酉ハ不用ナリ因茲
春晴申明朔酉此酉ハ不用ナリ朔日申音酉此酉ハ是ヲ用
ナリ癸叓二日前未ノ日當テ祢宜祝各ニ頒リ社々ヲ掃除シ而
本宮ノ中門及東門ヲ開戸ノ中門ハ棚尾ノ後門ヲ亦神人等御
生所ヘ次ノ方圍作リ南其前ニ五尺斗リ榊五本寄掛テ

置シ右ヘハ此圍ニ鈴ヲ付ル二ヤ西行
思フ支御生ニ掛テ引鈴ノ叶ハヨモ鳴シトゾ思フ
ト読ル哥アリ今ハ鈴ナトハ無ナリ同夜戌刻斗祢宜祝冠衣御生所ヘ
參勤シ圍ノ南東傍ニ横置ヲ設テ一列ス拝揖ナシ北首西向神人等ハ
圍ノ南面ニ集居其所ヲ舛花トゾ神人各ニ進圍ニ寄置ル榊ヲ取テ
社司之前ニ蹲ル社司各次第懐中ヨリ奉
取テ枝ニ付ル是ヲ裂幣ト号ス而シテ亦是ヲ圍寄置ナリ次癸三十二
本ヲ四ツニ結合テ社司ノ冠ノ巾子ニ是ヲ差入神人
進ム神人役之而神人ハ進出シテ圍ニ寄置ル五本榊ヲ壹本ツヽ収立持
圍ニ前ニ列立ス亦一人ハ柏子木ヲ撃テ役人ヲ引テ列ス蓋シ此役人ヲ引テ首ト云

此柏子木撃ㇾ度ハ先拂ㇾ心也神人従之而圍ㇾ内ノ左ノ方ヨリ
走リテ一巡リシテ直ニ本宮ノ方ヘ馳参ス社司各ニ退散
聞説ノ神人ホ道路ニテ微音ニテ神哥ヲ唱フナリ或人ノ
云ク神歌ニハ非賀茂ノ遠久カ讀ル久方ノ天ノ磐舟漕ヨセ
シト讀ル哥ナリトソ而シテ
彼榊ニ木ノ棚尾社ノ左右ノ柱ニ結付ル殘リ三本ハ五所ノ
屋ノ南ノ傍芝草ノ上ニ金輪ノ如ク差置テ其本ヲ
帋燃ヲ以テ一束ニ結置ナリ
翌日氏人参詣ノ法ヲ見ルニ大宮殿ノ方ヘ向テ拜其故アルニヤ
右榊ヲ納ルノ法秘シテ云フ人ナシ賀茂遠久カ讀ル久方ノ
天ノ磐舟漕ヨセト讀ル哥ヲ以テ按スルニ御生所ノ
神祭ハ正ニノ降臨ノ法ヲ摸スル祭礼ナルヘシ亦棚尾社ノ後ノ
中門ヲ閉テ棚尾ニ榊ヲ立置度ハ降臨ノ時此ヲ宮地ニ定
シト欲スルノ法ナルヘシ亦本宮ヘ社参ノ輩ヲ先棚尾ヲ拜テ
後本宮ヘ参ル例ハ降臨ノ時ノ其旧地ノ故ナルヘシ申酉ノ
兩日御生所氏人等参詣ス但シ今日ヨリ裏ノ服ニ改ムナリ
浄衣ノ輩ハ桂ノ枝ヲ腰ニ横ヘテ狭ニ挿一本ヲ頸帋ニ
掛ル白衣ノ輩ハ男女トモ袴ヲ本結ニ掛ル亦髪ヲ雜
メル輩ハ耳ニ掛テ右ヘノ法トス京洛ノ人ノ云ルハ御生所
ハ旅所トイフトモ諸社ニ皆リテ祢宜祝ノ一人モ不見
メ、御留守ノ体ト謂ヒタリ誠ニ然リ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

當日酉ノ日黄昏ニ及ヒテ本宮ノ中門ヲ開キ本宮ヘ
神供ヲ献ス其時伶倫音樂ヲ奏シ奉ル神供微ニテ
後橋殿ニ於テ神祭ノ儀アリ橋殿亦名韋殿亦細殿ノ前
ニテ五人騎馬法アリ已上皆諸人見ヲ故ニ詳ニセス
而騎馬之輩西辺ノ松樹ノ東傍ニ各〻相揃ヒ而テ
御生所ヘ次第ニ参入ス此間説ノ御生所一町バカリ
此方ノ路邊ノ東ニ御生殿ト号シテ少シ高キ所
アリ此ニ人祭文ヲ持テ居ス人アリ騎馬ノ輩ヲ此
ニテ下馬シ祭文ヲ聞而シテ亦火急ニ屋ノ前ニ
テ馳入即チ馬上ニテ揖シテ下向ス

右御生所之儀式賀茂ノ住人トイヘ共従人ノ外堅ク
制シテ拝スル事不成況ンヤ他所ノ人ヲ於テヲヤ余
不思儀縁アリテ一年是ヲ拝是偏ニ幸ヒ甚タシキ
ヲ以テ是ヲ詳カニ記スル所ナリ

賀茂神社号巻之終

右此一巻者清光
なるべし
于時安政五戊午歳三月
愛清

渾沌殿行事

○御殿

渾沌殿

○神躰

渾沌社

渾沌殿

○御殿　十二疊敷但皮付檜九柱御戸前後ニ有後ハ神ノ道前ハ祭主ノ進道左右御戸脇ハ扨壁前後階有屋孫古法ハ榊ノ葉ヲモツテ葺今世ハ扨葺

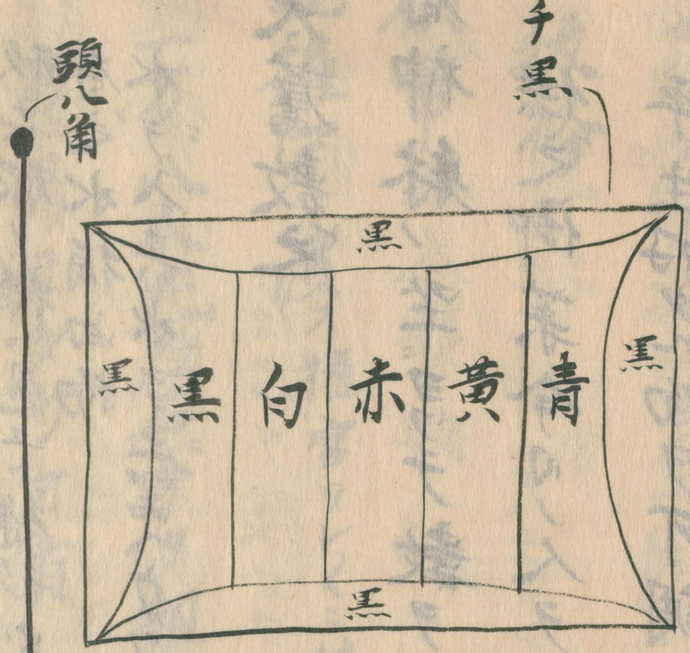
○神躰以赤土封　左土清山ノ頂上ヲ取土ニテ勸請スルコト掘家ニテイテ極秘ナリ末ノ世ニテ若神躰ノ一ツニナリテモ土ハ本ノ土ニ返ルスレバ生死一ツノ道理ナリ

渾沌社

二疊敷ノ角ヲカキ榊皮付長八尺ノ柱八本立之ヲ其柱ニ五色ノ幔幕ヲ張ルハ八角ニ見エル天井ハ紫布ヲ八角ニ張左酢ニ紐ヲ付ル是古代ノ式ナリ今ハ絹ニテモ用ル之其幕ノ内ニ岩座八角ニテ徑一尺八寸其真中ノ下ヨリ心ノ柱立ル柱ハ檜九ツニテ徑一寸三分長サ二尺五寸柱

榊ノ葉ヲモワテ上ヨリ下ニテ包芋ニテ結付ル
四下リノ里一所ニ四ツ宛八所ニ付ナリ上下ニ十文字ノ
木アリ木ノ真中ニ真柱ノ納ル穴アリ下ハ十文字ノ
木ニ足四所ニアリ真柱ノ上ニ岩坐巣岩坐八角ノ
高サノ間ハ板ニテ張真柱ノ上下ニ縁ヲ八所ニ折之
但シ真板ニ雲ヲ盒ヲ真岩坐ノ上ニ疊ヲ數但シ縁ハ
大和錦真上ニ御舩ヲ置御舩ノ中ニ御神躰ノ
御箱ヲ納御箱大サ三寸四方高サ五寸心ノ柱
徑リ一分半長サ七寸箱ノ蓋ノ真中ニ穴アリ柱ヲ
立テ上ニ殘リシ一寸八分ヲ切テ蓋ニテ五寸二分ヲ
箱大和錦ニテ包之ノリノ付様角ヨリ中ニワクル
末ノ世ニ至リ出不入メメナリ 是古實ナリ
箱ノカラミノ芋横三所立三所各後ニテ結納メ
余リノ芋ヲ蓋ノ上エ横立トモニ取テ真結シ
テ又両ワナニ結ムスヒメリ芋ニテ真結ニ結ヒ
納ルナリ花蓋ヲシメザル先ニ清板有此清板ハ
榊一本長サ八寸八下リノ里ヲ付ルナリ

幔幕



一幕半

右幔幕之畳如此

○扎一脚岩坐ノ前ニ置 其上ニ太刀一振玉苧ニテワナギテ一ツ
　　　　神鏡一面鏡臺ニ乗ル鏡絹掛ル絹ノ
　　　　形衣服ノ様ニ見ユル縫形別ニ有之鏡臺ノ形別ニ
　　　　有之水桶曲物
　　　　水ヲ入真水ヲ土器ヘウツシ備ユル

○幕ノ内太薦敷之

○神供有神躰ノ坐ニヨツテ数ヲ極ム先一座ナレハ一膳
　　供之御茉今日ノ人ヲ祭ル時ハ其祭ル人ノ
　　平生好ム物ヲ可調進古代ノ神ヲ祭
　　ル塩鰯塩鯵鮒等ノ類用之神酒ハ
　　黒白備ノ之

○奉幣 如常幣使法式如常

○祭主 扱修

○徹神供幣

○釼玉鏡権官ニ渡ス権官ソレヲ請ケ持之

○人垣 一方ニ八人宛左右ヲヨツテ多ケ可有
　　所ニヨツテ多ケ可有

○錦蓋 役人一人持之

○揃 八枚 左四枚宛左右ニ立持之

○御神躰御舩 榊主御舩ノ真中ヨリチヨト掛テ頂戴キ舩ノ左右権官従左御舩ニ八重榊立ル

○五色ノ幔幕二張一張ニ四人宛幕串ヲ持御舩ノ左右ヲ張テワス

○御先拂ノ役人警蹕ノ榊ヲ持一番ニ進

左榊一天寺シテ四下リ付之

○本殿内陣ニ神躰鎮坐 権官ノ分階下ニテ神宝等持進榊主ソレヨリ内陣ヘ納ム右揃幔幕等ヲ持来役人ハ階下ヨリ退

○渾沌殿ヨリ本殿ニテノ間ニ片ハヘ取莚可幕左右ニ張左モ白幕ナリ

○荒薦延道敷 但コモヲ敷其上ニ布ヲ敷ナリ

○本殿神供奉幣 如常

祝詞

○祓 心中祈禱勤之

○神供 ワレくニ徹ス之

○御幣 徹ス之

○御燈上ル 左ニ燈明ハソレくノ所ニトモセ尼此御燈ニハ格別ニ上ル之

長五尺 幅一尺寺

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

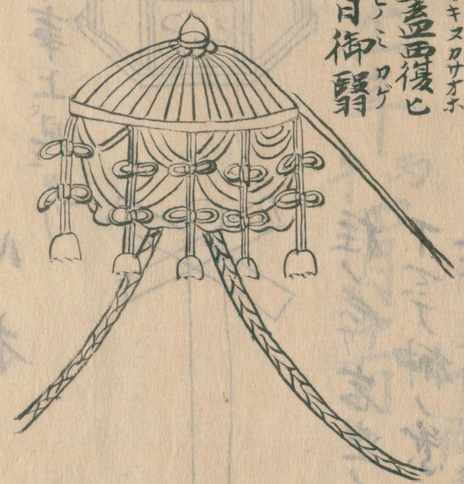
○渾沌殿ノ内ニ雲蓋ノ燈明トテ隠シ大有ㇾ傳

○奉幣　御幣御戸ヘ向テ神ノ左リニ立ん

○渾沌殿同社トモニ注連縄ヲ引　左ニ四垂ノシデヲ付ん又葉付榊小枝ヲ前ニ付ん

○渾沌殿前ニ大榊二本立ん左右

錦蓋

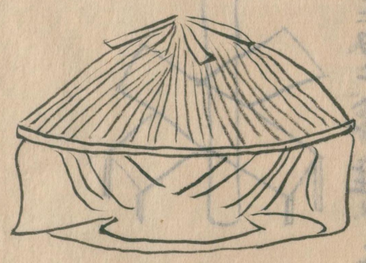


御鎮座本紀云錦蓋(ミニキノキヌカサオホ)而覆ヒ日綱曳(ヒノツナヒキ)ハエ天御翳(アマノミカゲ)日御翳(ヒノミカゲ)ト幷(サシカヽ)テ覆(オホ)ヒ奉行幸ス云々

神幸ノ時サシカケ覆ヒ奉ルㇾ具ナリ

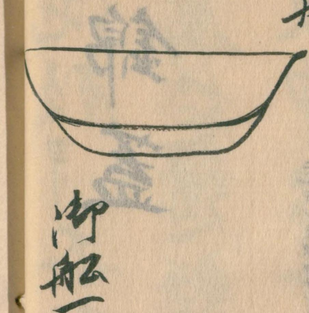
菅笠

雨(ウキ)ノ具(モリ)ニ設ナリ



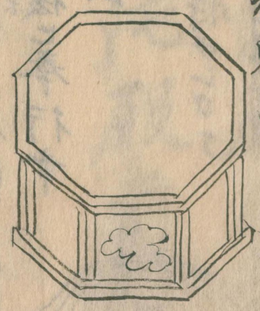
享保十一年丙午四月十日　下御霊神主

従五位下攝津守春原朝臣真元　謹言



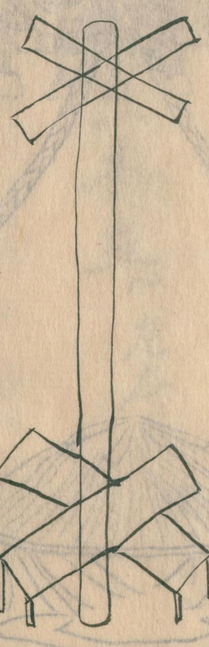
御船

御船一方、但本究葉付ノ榊ヲ立ル左右ニ八本ナリ



岩坐

御神躰ノ坐ナリ事上ニ見ユ



心柱

柱ノ長サ岩坐ノ高ニヨルベシ柱ノ上ヨリ下ニデ榊ノ数ニテ覆ヲ受ヲ八重榊ト云八所ニ垂付ル事上ニ見ユ

所司代作法
一十月五日貞代ニ家寄合初ノ振舞
ノ之盃入時ニ五百文ノ
司ニ書持參シ
氏神祭ノ事霜月初ノ申日
四月ノ日ニ
一馬ニ而ニ書物ニ道祐ニ
宿ニ而リニ来ル時ニ

決作之日、返上書付之事

廻来　酉の日氏神参之走馬之事

神主

正祢宜

正祝

権祢宜

権祝

片男祢宜　之定

片岡祝　之定

責希祢宜　之定

責布祢祝　之定

右所廻之状如件

年号　十月　日

同晩差譜之通被渡之巻ノ末右ニ有之

但シ日有之ニヨリ奥ニ小日ト計リ書ス

廻来 日氏神祭礼舞人之支
一番 敬位 賀茂縣主 名字
十番ニテ同前也
右所廻之状如件
年号 右ニ同ク
右兼日ヨリ相尋ヌレトモ不知
元ヨリ名ハヤト何モ不知
ハヤ兼ヨリ知レカシ
トシテ物シリ馬ニモツケサセ廻化メシ
ノトヲリニ渡スツレスミ
ヤカテ乗ル
兼テヨリ名ハ頭ヘ申也
差譜ハ持明ルヤ
一正月五日六日比ニ番頭ノ日記ヲ
人数ヲ五郷ヨリ付ヲ

次第ニ加ル也

書極之次第

河上御精進頭　名豊、茂有

（但右ノカタ二代ノ字二字計リ之）

什官流一人上次第書十人之宿老ハ河上ニテ、

一和尚　六和尚　大宮卿、二和尚七和尚

小山ニテ、三和尚八和尚　中村、江和尚

九和尚　粟飯、五和尚　十和尚　物減茂有之

年号　四月日　但日ノ字ナシ

河上御精進頭　名豊、茂有

（但右ノカタリ三字下テ又年号ハ物減ヨリ一字下テ五ツ兵ニ同ジ）

正祢宜○　新宮祢宜

（ヤアイタノ一字ヲ略ノケテ）

若宮祝　太田　祝

大ニテ、

責布祢々宜　若宮祢宜

権　祝　澤田　祝

小山御、

権祢宜　太田祢宜

貴布祢祝　奈良祢祝

中村御、

奈良祢宜　氏神祢宜

正　祝　片岡

田本御、

片岡祢宜　澤田祢宜

新宮　祝　氏神　祝

物盛ヲ

右ハ正月十一日之未明ニ参リ、十五日之寺ヘ出ル、若キ之合カヘリメルカヨキヨシニ、十五日之又ハリ申内ニ参ライキナレモカキナンカヌ法也

申来リテカキナシ申由兼ル也

所司ヲヘ置ル書也

番頭飯ヲシ時ハ所司一人分ニ勘取ル也

これに相符之者ニ而
一大廻 ハシリ書 神拓次少
廻 此間ニケツアリ 来 但當日ノ日ノ書 日御祭方々行事
一奏
宮子ニ織蔵常陸書 但考長十二年四月十七日當
宮子之内ニ十人之宿老又十人同ニテアリ
又別当大夫又十人同也 但大秋頭ニ當番
常陸守ハ服而

別当大秋頭別當常陸守ニ
其次ニハ織蔵常陸ニ十四人同ニ
但十二人同ニ申ルガヨシ
又雪見ノ所ニ別当大夫トシテ二手也
代之時代ノ書ニ雪見ノ所ニ
一砂ニ一和尚ハ和尚 一舟ニ 二和尚九和尚
一橋ニ三和尚十和尚 一道ニ 四和尚十一人同
一鳥蜚ニ五和尚十二人目 一枝ニ六和尚十三人目

一殖松ニ七和尚十三回
書也若狭ノ有ニ付未ダ
スクナク書リ年号ニ人ノ外ハ家並ニ書也
年号ハ右ノクスリニ一字下テ年号ヲ下ニ
書也又年号ノ外右ノクスリノ通ニ修理トカリ
又御修理ヨリ一字下テ御目代ト書也

檀之祝

これの有。ふたりの。ふたりの。
みことをかけてくれ。かしこ。
こゝろのひろまへ。あまねきいつゝの
日をりて。おくやまの。風つよく。
かつらの木にかけをそして。さよ
ふをとゝりて。男やあれ男とみつけ。むこ
とし。ゆるしなへ。なつけ。よき

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

うけひさいあそばしやうのこと
乃ことことしもうたひまつり
あいうるよしたてまつるのす
祝馬千馬不意馬千馬不意馬千馬
祢宜馬千馬不意馬千馬不意馬千馬
司馬千馬不意馬千馬不意馬千馬
あ祢宜のたかひくさまもうして
さしまいりたこのけふはたつ
あまりいかもまあまりいつ馬
めしてまうをたらけてそら
てなをへらしのたうのさうね
よのまわり日のまわりよさうへ
おそうまして。ちんふ百
ろまでとうのさいちへ
ことひてやさく

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一氏神祭慶長十三年中
祭名従五位下ノ口宣
之宮ノ物保
秀頼ヘ書
同年中ノ位階ハ
一二月廿二日ニ九中
中指入用 筆一対
中松原ニ拓振年ニ座席傳受ノ品相伝ハ

心ある社ニ有筈向
賀茂九ヶ寺物語
銚子ノ如ク三ツ盃ニ
中巻 社
いり
かのめ けつめ
二ノ汁 鯛
勿論ニ筆一番ニ
賀茂筆門ノ手ノ

たれ〳〵も同ニ書付シ之ヲ
又打カミニ一二三廿二三ノカキ方ニテ又打ノ三ニ〳〵ト
張ニ度ヲシ立ルヲ
一番衆（ヨリカミノカタ）
一名 名前
二〃 〃
〃 〃
書拔ノ事

廻 来五日勢州ヲ之事
一番 たれ 名乗 又
たれ たれ 名乗 〃
〃 〃 〃 〃
〃 〃 〃 〃
十番ヲ定ル座ノ内ヲ以テ 申ノ上ル
右所廻ノ件所定ノ件トモアルン時ハ
奥ノ日ト申ス
為長十二年四月 日 但奥ノ日ト申ス
祝部ノ方ヨリ三方ニ奉書ヲ敷
ソノ上ニ御倉ヲ置ク
一小中十二月大十七日ニ廿九日小寄合

一番　敬位　賀茂縣主
十番　敬位　賀茂縣主

右所通之狀如件

年号　五月　日

右方ヨリ回文

二通トモ二供奉ノ巻アリ上書ハ左方
右方ハ内ナケテヰヲ但一字下テ書ヒ

二通ナカラ二方ニテセニノクケテ奉ル
而已代ヨリノミシテ此ヒ
一毎月ニ社務指重ヲ持
参ノニヲ持メルカヨキヲ
念ナキ之ヒ一ヲ、筆門一行
ひへ神人ヨリ来ル二通渡

但月ト中

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

五月朔日許可作法
社務並ニ御会ニおよび勿論、春
若宮ニ御同代別當ニ
別當ニ並ニ御会ノ東ヨリ南ニ
若宮ニ御同代ニ東ノ
但シ年ニヨリ形ヲ
上リ若宮ニ同代モ同
御同一人作法
一並ニ御会ニおよびワクイナカラ

御会ニ右ニ並テヘキ御シ並ニ又
クサテコリノヲク右方ノケ文
キ並ニヲケサシヲニ通ル御

右略氏人ヲ
上社御ヲ
近宮ニ執ル
庭田ニ南ヲ
ワニ様ノ如ヲ

御宮ヲ
十六ヲ

九也但年ノ見松ニ代ヲ
入墨摺筆ヲツメ安

五月朔日許可作法
社務並年行事等会合於勾当屋
着座之面々同代別當並年行事
別當並末座ノ東ヨリ南ニ廻リ西方ヨリ上リ
着座之面々同代ノ東ヨリ上リ
但年行事ハ勾当ヨリ東ノ方ニ向ヨリ
上リ着座之面代モ同作法
一人作法
一立花会ハ上リワクノイナカラウシロヨリ
おも右ノ盃サテヘキ初ノ盃又ハ
クサテコリノウタ右方ノケ文箱ヨリ
キ盖ヨリケサシコシニ通丸初ノ
座ノニワク次ニ硯ヨリケニスヘ墨筆ヨリ盃
カミノ水ニヒタシ巻スサ其ノ馬ノ書立ノ文箱ヨリ取
出ヒラキサ見ん前盃被ヨリ
リ初ニ盃
一水ノヒタシ持来ルニテ別硯
丸也但年ノ見板ニ作ありノ

一撿封ヨリ毛付書物抔来ル
硯ト文箱トノ為ニ並ル但上包ニ
右ニ物左ニカウカイシ
右ニ書立ヨリニロケテ右ニ
ヨモセニヨリ勢屋ノ名ヨリ出ル
外ニ硯ノ為ニ田口ヨリ来ル毛付ニ
文金降安志ト三ツ、勢屋ノ
名ヨリ出ル時ナニヤ
名ト云ヘ残ル分足トヨリ九打ノ名ニ書写ス
但シ足ト毛付モ人名モシニ当ル
ル二カラス勢屋ノ名付ヨリ出ル
持参スル事由コレハ書立ノ下ニ
一スクカケ二上中下付ル時右ノ
一張文庫ハ不及問上ニ上ニ
右付ル也
一残ニ当ヨリ足ノヤキ馬ノ部
ニ入ヤト問ヒ時序ニヨタテ
中上ノ下中ノ上ト中下ト位ニ
分座上ニ三四ヲ

十七日付右ノ件ニ付右ノ書面ヲ勘定
所ヘ差出ス
一ツカイ馬ニ而持モチヘカケトンリヨウ
ヨリ預リ候ニ付右ノコトリ次ノ勘定所
ヘ持参ス、尚又右ノ書面ヲ以テ社務ヘ
一引合ノ為ニ勘定所ヘ行ク
右ニツキオツカセル共左ノ勘定所ヘ
持参ス、尚又右ノ書面ヲ以テ社務ヘ
一引合ノ為ニ勘定所ヘ行ク

ヨリ引合ノ為勘定所ヘ行ク
同ク引合ノ為ニヤシキヘ行ク
一引合

一三月ツカイ九日ノ廻章ヲカニヤカヒヘ持ヲ
立売不動東ノ将南ヘ一方金下リ尼ノ足ヲ西ヘモ
入、ニセ右ノ足ヲ西ノ路次ノ半ニスヘ
右ノ半ヲ上ヘ益ヲニヲ方ヘ
北ヘ三軒目ヲ隔テ南大松ノ

右ノコトク渡ス処

石隈ヨリ慶長十二年丁未五月ニ中務分物
氏賢不司ノ時代氏坊ヨリ刑部孝顕ヘ
相尋ル孝顕ヨリ又右馬氏孝
為ニ六年五月ニ孝顕ヨリ相傳ヨリ書
一五月五日朔日ヨリ節ニ御書物ヲ
廻 来五月朔日一種物事

神主
正祢宜
正祝
権祢宜
権祝
件置簀
件岡祝

貴布祢宣
貴布祢祝
新宮祢宣

右所遣状如件

年号四月日

右之書状渡之

一種物ト馬ノ事両ト二通ノ海日暁神人取
點合取持来也ヨリ也翌朝日ノ勾ノ海日晩ノ
来田口ニ宿ス今田口ヨリ取ニ来其ノ毛付馬場
ニテ馬ヲ立ニテ渡ス也取ニ来ル人ハ
一五日ノ番立ハ代官ニ宿ル別ス日ニ代官ニ宿ヨリ
ス来ル但五日ニ廿五疋ノ馬揃何ヲヨリモ之
ヽ毛付ヲ立テ伊方ニ宿ル
渡ス刻ヲ宿ニモ五日ニ宿ヨリ

832
97
305

一頓下前松ノ立下時分ハ社務ヨリ有テ
立下也事ハ馬七疋ヨリ壱疋ノ
事本儀ハ壱疋也一和尚仍壱疋ノ
但近年ハ又壱疋ニ
壱疋ニテナシ下ル

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第91冊』 請求記号 832-305

ガラス使用